

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991000126		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホームほのぼの		
所在地	栃木県大田原市蛭田1795		
自己評価作成日	平成30年11月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.wam.go.jp/wamapp/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	平成31年 1月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

湯津上という田畑に囲まれた静かな環境にあり、ほのぼのとした雰囲気の中穏やかに過ごせる落ち着いた施設です。広大な庭に畑やウッドデッキがあり、施設内に居ながらも湯津上らしさを感じられる作りとなっています。利用定員9名のグループホームと利用定員10名のデイサービスが同じ建物内に併設しており、どちらも少人数を対象としていますので、アウトホームな雰囲気を大切にしながら、深い関わりが可能な温かみのある場所になっています。デイサービスを利用していた方が、そのまま通い慣れた同じ場所のグループホームに将来入居して生活するという事も可能です。近隣には小学校もあり、街の行事やイベント等にも参加させて頂き、地域との繋がりが大切に出来ます。施設に居ても、その方が住み慣れた地域で、その人らしい生活を続けることの出来る、安心と笑顔に溢れた場所になっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・事業所の理念である「人としての生命・人としての生活」を全スタッフで共有し、悩んだときは常にこの原点に立ちかえり、利用者第一主義・ぶれないサービスの提供を心がけている。
 ・事業所は静かな田園風景が広がる自然豊かな環境の中にある。庭と畑では、四季折々の草花や野菜が栽培されており、利用者は広々としたウッドデッキで、お茶やおやつを楽しんでいる。食事の材料は外注であるが事業所で収穫した野菜も一緒に手作りで提供されている。
 ・入浴は、利用者の希望にあわせて週3回、1対1でゆったりと心地良い時間を提供している。また、浴室にリフトを設備して、重度化した利用者も安全安心に入浴することができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	京福会としての理念を勤務前に確認出来る位置に掲示し、全職員が意味を理解した上で、全ての方が人として満足出来る生活が送れるよう、サービス提供を行っている。	理念の「人としての生命、人としての生活」は、ホームページやパンフレットにも掲載し、職員会議・ワーカー会議においても話し合いをする機会をもっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	小学校の行事や地域のお祭り等に参加し、地域交流を図っている。また、法人の夏祭りには大勢の地域住民が参加して下さり、楽しい時間を共有している。	近くの小学校からは、生徒からのお手紙や運動会の招待などを受ける関係である。また、地域で行われる、ゆずかみ友愛広場祭りには、出店ブースを設け地域住民との交流を図っている。	地域との交流活性化施策として、職員の特技を生かした、折り紙教室や料理教室などを事業所内で開催し、地域の方と交流できる開かれた事業所を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症という病気で困っている方やそのご家族の助けになれるよう、グループホームという役割を地域の方々に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施し、意見交換を行っている。グループホームほのぼのとして、認知症の方への関わり方や運営状況を伝達し、地域の方や行政の方からは意見を頂き、サービス内容のより良い改善に努めている。	運営推進会議は、平日の午後から事業所内で行われている。市職員、地域包括支援センター職員、自治会の区長、民生委員、家族代表など合計7名の参加である。会議を通して事業所や福祉関係の情報発信とともに地域状況や利用者ニーズ把握に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議にて市の担当者と意見交換を行っている。また、書類の提出等で市役所に訪れた際や電話で話す機会にコミュニケーションを図り、相談にも乗って頂いている。	市の担当者と地域包括支援センターには、事業所の利用状況や空き状況などを情報提供している。地域包括支援センターから利用希望者の情報提供などもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の指針を整備し、施設内にも掲示している。また、施設内に身体拘束予防委員会を設置し、毎月委員会による会議を開催。また、身体拘束に関する学習会を年に2回以上設け、拘束される側の体験をし、拘束される気持ちを理解するようにしている。	事業所の勉強会では、身体拘束をした状態を職員に体験してもらい理解を深めている。また、事業所代表が集まる法人の身体拘束委員会の内容なども職員に周知して意識の向上を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する内容の学習会を実施。また、管理職との面談する時間を設け、職員の心のケアにも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する学習会を実施したり、外部研修への参加を積極的に行っている。学んだ事を介護に活かし、ひとりひとりの気持ちに寄り添う介護を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、安心してご利用頂けるように十分な説明を行っている。その後も不安や疑問点等あれば連絡して下さいとお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族様代表の方にも参加して頂き、意見を頂いている。また、面会時等に頂戴した貴重な意見は会議にて取り上げ、より良い運営を意識し話し合いを行っている。	家族の面会時に個別の意見要望を聞いて都度対応している。利用者の意見は日頃から聞いて、できる限り対応している。また、誕生日にも外出や好みの食べ物などを聞いて対応している。ほのほの便りを家族向けに毎月発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やワーカー会議での意見交換はもちろんのこと、日頃から職員とのコミュニケーションを大切にし、職員の意見や提案を反映させている。	管理者は日ごろから職員の意見・要望などを聞いている。また、体制面では居室担当、委員会を通して、職員が自ら考え自ら行動し自己実現ができる環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	匿名のアンケートを実施したりして、職員のリアルな声を情報として集め、福利厚生を見直したりして働きやすい環境を整備してくれている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や中堅研修、管理職研修等、階層別での研修を設けたり、介護職や看護職、事務職等、職種別の研修も設け、職員が成長する機会を作ってくれている。また、外部研修への参加にも積極的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域密着型サービス部会等の勉強会や、社会福祉協議会の研修等に参加し、同業者との関わりの中で情報交換を行い、サービスの質を向上させる取組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面談時に本人様の生活歴や嗜好等をお聞きする事でその人らしい生活の提供を考え、同時に不安や要望等をお聞きし、安心して生活して頂けるよう意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用する上で不安な事や心配な事、不明点等を初回面談時や面会時にお伺いするように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談時に本人様や家族様のニーズに対して、グループホームが力になれるのか、快適な生活をする上で適切なサービスを提供出来るのか客観的な視点で見極め、他のサービスも含め、お話をさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様にもお手伝いして頂ける事があれば協力して頂き、他入居者様も含めて一緒に生活しているという感覚で過ごして頂けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には月1回はお越し頂けるようにし、顔を合わせる機会を設けています。また、衣類や嗜好品の調達も家族様に頼むべきものはお願ひし、共に本人様を支えて頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事等に参加し、馴染みの人との関わりや馴染みの場所へ行く機会を設けている。また、デイサービスに通っている知人が居る場合には交流の機会を施設内で設けている。	地域秋祭りへの参加や初詣など季節に合わせた外出を通して、馴染みの人に会ったり、場所に行っている。ドライブ時には、利用者の思い出の場所もルートに加えて対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にお話をしたり、何かを作ったり、お出掛けしたりする機会を大切にしている。人数が少ないので、レクリエーションは共同で行うように努め、関わりを持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した場合、法人内への施設に入居された場合には法人内なので関わりを継続出来ますし、福祉に関する相談があれば利用が終了した方、そしてその方の周囲の方に対しても受け入れるように声掛けをしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向や希望を把握し、ケアプランや日々の介護に反映させている。家族様からの生活歴や嗜好をお聞きし、本人様らしい生活をして頂けるように努めている。	個別ケアを実践するために本人や家族から意向を聞いて対応している。職業や趣味などを聞いて、継続できるものは支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人様の生活歴や性格等を聞き取りし、その人らしい暮らしを継続出来るようにしている。また、家族写真や使い慣れた家具の持ち込み等を提案している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの食事や入浴、排泄等の状況を把握し、本人様の有する能力を理解した上で残存能力を活用したり、本人様のリズムで過ごせるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様に担当職員を設け、意見交換やモニタリングを行い、ケアプラン等に反映させている。また、家族様やそれ以外の職員とも連携を取り、情報収集に努めている。	利用者が行いたいことや健康維持を重視した介護計画をワーカー会議のカンファレンスで話し合いをして作成している。3か月に1回モニタリングを行い見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報や連絡ノート等を活用し、日々の記録や情報共有を行っている。また、毎月のワーカー会議にて話し合い、介護計画の見直しやケアの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時のニーズに合わせて、家族様や医療機関と連携を取り、可能な範囲で本人様のニーズに応えられるよう、柔軟に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近にある地域資源を活用し、入居者様の生活に安心や豊かさを提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を大切にし、ひとりひとりに決めて頂いている。また、協力病院との繋がりもある為、その時の症状によって連携を取り、通院や相談を実施し、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者・家族との話し合いで、同法人の病院がかかりつけ医となり、24時間の協力体制となっている。2週間に1回医師が来て、利用者の健康管理をしている。また、24時間の訪問看護体制の連携が整っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設しているデイサービスの看護師に協力して頂いたり、協力病院の看護師に医療的な事は全て相談したりして、適切な受診や看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際や通院した際には情報交換や相談を行い、関係作りを意識している。小さな事でも自分達で判断出来ない事は病院に確認するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にグループホームの役割をお伝えし、重度化した時の方針や受け入れ体制について説明している。設備や人員配置の問題により、本人様に適切なサービスの提供が難しくなる可能性もあるので、関連施設の紹介も行っている。	看取りは積極的には行っていないが、利用者や家族の意向と医療行為を伴わないなど条件に合致した場合は実施している。利用者・家族向けに急変時の医療対応の意向確認を2年に1度実施して、延命治療行為の可否を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会にて応急手当や初期対応の方法を消防署の方を招いて学び、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練を実施しているが、そのうち1回は消防署に立ち会って頂き、もう1回は地域住民に協力をして頂いている。法人としても災害に対する体制を整備している。	災害時に備えて連絡網を作成し、職員に配布して対応できるようにしている。消防署の立会訓練は、水消火器の実技訓練を行ったり、避難訓練をしている。非常時に備えて、備蓄は3日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての方が我々よりも年上であり、お客様に当たるので、言葉遣いに注意をしながら対応している。	利用者の面会は、プライバシーを配慮して利用者の居室対応としている。また、利用者ファイルなどは書庫施錠保管を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人様より希望があれば、それを実現出来るよう工夫している。食べたい物や行きたい場所があればレクリエーションや誕生日企画に取り入れ、実現して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間等、本人様の希望や生活パターンに合わせてしている。また、余暇活動等においても入居者様の希望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替える際には何を着たいか希望を確認するようにしている。また、意思表示が難しい方にも季節や気温に合わせて服を選んであげるように工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食材を業者に依頼しているが、手作りや見た目にも拘って提供している。食事前にメニューの説明をしたり、準備や片付けにおいても手伝って頂けるところは協力して頂いている。	利用者の希望により、下膳などを行っている。利用者の状態によってミキサー食などで対応している。食材は業者から取り寄せ、職員が調理し提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ひとりひとりの食事形態に合わせて提供し、食事摂取量や水分摂取量を把握し、必要な摂取量が確保出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施。自分で出来る方はご自身で行って頂き、介助が必要な方はお手伝いして口腔内の清潔を保持している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや適切な排泄用具を把握し、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して個々の利用者の排泄のパターンを把握している。利用者にはトイレで排泄できるように誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	内服だけに頼らず、食事の工夫で自然排便が出来るようにしている。野菜ジュースやオリゴ糖等を取り入れたり、腹部マッサージをしたりと、個々に応じて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日はある程度固定しているが、本人様の希望や体調に合わせて柔軟に対応している。皮膚トラブルがある方が多めに入浴をする等、臨機応変に対応している。	入浴は週3回、利用者の希望に合わせて実施している。1対1で利用者のペースに合わせた対応をしている。浴室にリフトが設置されているので、重度化した利用者も安全安心に入浴ができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や希望に合わせて横になって静養して頂くようにしています。また、夜も安心して眠って頂けるよう、個々に合わせた環境づくりを意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が在籍していない為、職員の服薬に関する意識は高く、目的や用法・容量について理解している。症状の変化についても敏感に対応し、協力病院に相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いが可能な方には役割を与えてご協力を頂いている。会話の中で行きたい場所や食べたい物があればレクリエーションや誕生日企画に導入し、実現して頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	約2ヶ月に1回は外出するレクリエーションを企画し、買い物やドライブ、水族館等に出掛けている。本人様から希望があれば全体のレクリエーションや個別の誕生日企画に取り入れている。	外出などのレクリエーションの企画は、前年度の反省などを参考に見直しを行って実施している。道の駅や桜、紅葉、あじさいなどの観賞に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際等は自分達で支払をして頂くようにし、お金を持つことの大切さやお金を使う意味を理解して頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在、希望が無い為、そういった取組みは実施していないが、希望があればお応えしていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は入居者様を使いやすいように整理整頓や掃除を心掛け、照明や室温にも注意をしている。また、季節感を感じて頂く為に飾り付けにも力を入れている。	事業所内の飾りつけは、紙細工の特技を持った職員の作品で季節が感じられ、見る人を楽しませている。広い庭では草花などに工夫を凝らしたガーデニングが行われている。建物の南側の一角には、ひまわりが植えられていて、利用者が鑑賞できるようにしている。	ひまわり畑を事業所の目玉として、地域交流イベントを企画し若者なども取り組めるような活動を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には自由に過ごせるよう配慮し、仲の良い方や年齢の近い方を同じテーブルに配置して、会話が弾むようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に使い慣れた家具等を持ち込んで頂いていいという話をし、入居者様ひとりひとりにとって居心地の良い環境作りを意識している。	居室は、孫の写真やレクリエーションの写真、表彰状などを掲示して、居心地の良い雰囲気になっている。清掃は、朝食後に職員が毎日実施している。リビングと居室には定期的にワックスを掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助しながら残存能力や理解出来る事を把握し、建物の構造や補助具の活用等を考慮した上で安全で出来るだけ自立した生活を送って頂いている。		